

平成 23 年度第 8 回常務理事会議事録

日 時：平成 24 年 3 月 16 日（金）15：00～17：40

会 場：事務局 会議室

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

常務理事：岩下 光利、嘉村 敏治、吉川 史隆、木村 正、上妻 志郎、峯岸 敬、
八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：和氣 徳夫

第 64 回学術集会長：平松 祐司

第 65 回学術集会長：櫻木 範明

理事会内委員会委員長：海野 信也、竹下 俊行、水上 尚典、吉村 泰典

幹事長：矢野 哲

副幹事長：澤 倫太郎

幹 事：上田 豊、梶山 広明、金内 優典、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、
阪埜 浩司、藤原 浩、増山 寿、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

15：00 理事長、副理事長、常務理事の総数 11 名全員が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 2 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 23 年度第 7 回常務理事会議事録（案）の確認 原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①榎木勇名誉会員（京都）が 3 月 1 日にご逝去された。（弔電手配済、香典・供花は辞退）

②天津實功労会員（和歌山）が 3 月 10 日にご逝去された。（弔電手配済、香典・供花は辞退）

(2) 総会運営委員会委員、決算委員会委員候補者について [資料:総務 1]

(3) 平成 24 年度臨時総会議案について [資料:総務 2]

(4) 厚生労働省の行政処分について [資料:総務 3]

岡井崇副理事長「これからもこのような問題が出てくることはあろうが、本来ならば問題がある医師に対しては行政処分まで行く前に、学会で教育的な指導ができるようであれば行って対処

することが望ましいと思う。」

- (5) 平成24年度日本産科婦人科学会予定表について [資料:総務4]
平成25年度第1回理事会を、6月1日に変更した。

(6) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

3月8日現在、入金済5,564冊、校費支払のため後払希望 19冊。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①日本性感感染症学会から、HPV ワクチンの男性適用拡大の要望書を日本皮膚科学会や日本泌尿器科学会等と共同で厚生労働省に提出したいとの提案があり、本会としてもこれに賛同したい。 [資料:総務5]

吉川裕之理事「すでに男性にも数十カ国で承認されている。女性の接種率が70~80%で頭打ちになることを考えると、男性にも適用拡大する意味はある。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

②厚生労働省委託事業リンパ浮腫研修委員会における合意事項の広報の依頼があり、婦人科腫瘍委員会に検討を依頼し、回答を受領した。 [資料:総務5-1、5-2]

櫻木範明第65回学術集会長「日本脈管学会との連携を確認したうえで広報した方が良い。」

岩下光利理事「婦人科腫瘍委員会青木陽一委員長からのコメントをリンパ浮腫研修委員会に送るといふことでよいか。」

櫻木範明第65回学術集会長「リンパ浮腫研修委員会における合意事項には少し首を傾げるところもあり、青木陽一先生の慎重な対応で良いと思う。」

小西郁生理事長「昨年送られてきた依頼だが、再度検討依頼があった。我々の理解と少しずれているところもあり、青木陽一先生には慎重に検討してもらった。この意見を送って先方で再度検討していただくことにしたい。」

婦人科腫瘍委員会からの意見を本会の意見として回答することにつき、特に異議はなく、全会一致で承認した。

和氣徳夫監事「これは以前自分が社保委員長だった時に保険収載されたが極めて安いので、もう少しアップしていくことを社保委員会にはお願いしたい。」

(ハ) 周産期委員会

①ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書について、小野薬品工業から厚生労働省と協議する旨の回答があった。またこの要望書に関連する資料を3月7日に提出した。 [資料:総務6、6-1]

落合和徳副理事長「疑義解釈委員会で要望書を出したが、陪席していた厚生労働省からは前向きの発言があった。」

②生後一ヶ月検診での便のチェックによる先天性胆道閉鎖症の早期発見について
胆道閉鎖症スクリーニングに関するマニュアルと小さなカードを機関誌に同封して会員への周知を行うこととした。 [資料:総務6-2]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会 特になし

〔II. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

- ①2013年度から開始予定の「次期国民健康づくり運動」および歯科口腔保健の推進に関して、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会において、10年後（平成35年）に目指す姿や目標についての素案、基本方針が提出されている。[資料：総務7、8]

小西郁生理事長「本会からも意見を提出したが、国民の健康なので女性限定の内容は扱わないとの方向が強いようである。」

- ②厚生労働省保険局より、「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」の一部改正についての通知を受領した。機関誌に掲載して会員に周知したい。[資料：総務9]

海野信也委員長「支払の早期化への対応の一環である。」

- ③厚生労働省医薬食品局より、「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正についての通知を受領した。[資料：総務9-1]

- ④厚生労働省雇用均等・児童家庭局より、医療ネグレクトにより児童の声明・身体に重大な影響がある場合の対応についての通知を受領した。本会の機関誌に掲載して会員へ周知することとした。[資料：総務9-2]

木村正理事「エホバの証人の新生児に対する輸血拒否という事例についてはこれを医療ネグレクトと解釈して対応する方針が統一されており、参考になると思う。」

- ⑤厚生労働省医薬食品局より、医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知依頼を受領した。本会機関誌に掲載して会員へ周知することとした。[資料：総務9-3]

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会

- ①日本医学会役員選挙結果について、通知があった。[資料：総務10]
②日本医学会を通して、厚生労働省医政局から平成24年度臨床研究中核病院整備事業の実施についての周知依頼があった。[資料：総務10-1]

(2) 日本癌治療学会

日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員、協力委員及び評価委員の本会からの推薦について、同学会から正式に委嘱する旨の通知を受領した。[資料：総務11]

(3) 日本救急医療財団

日本救急医療財団では、同財団が実施している救急救命士の国家試験の試験委員を本会理事の上妻志郎先生に委嘱していたが、今回上妻先生が辞任されるにあたり、本会から後任の委員の推薦依頼があった。本会から慶應義塾大学の田中守先生にお願いしたい。[資料：総務12]
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 神戸国際医療交流財団

神戸国際医療交流財団より、安全な急速輸血装置開発のための支援依頼があった。本会としてもこれに協力することとしたい。[資料：総務13]
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 日本家族計画協会

同協会主催の松本賞において、本会の水上尚典理事が受賞された。震災後の情報発信を評価されたものである。[資料：総務 14]

水上尚典委員長「放射線被曝についての情報発信は周産期の先生方の協力によるものであり、深く感謝している。」

[IV. その他]

(1) 中外製薬

中外製薬より本会から推薦した 5 名の評価委員による「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価検討会の開催依頼を受領した。

[資料：総務 15]

2) 会 計 (岡井 崇副理事長) 特になし

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①第 64 回学術講演会 IS Award 選考委員会を 4 月 13 日に開催する予定である。

②第 64 回学術講演会優秀演題賞選考委員会を 4 月 13 日に開催する予定である。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第 64 回学術講演会プログラム委員会

(ロ) 第 65 回学術講演会プログラム委員会

(ハ) 第 66 回学術講演会プログラム委員会

4) 編 集 (上妻志郎理事)

(1) 会議開催

①3 月 16 日に和文誌編集会議と JOGR 全体編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2012 年投稿分 (2 月末現在)

投稿数 186 編 (うち Accept 2 編、Reject 63 編、Withdrawn/Unsubmitted 41 編、Under Revision 10 編、Under Review 70 編、Pending 0 編、Expired 0 編)

(3) 和文機関誌オンライン化について

和文機関誌のオンライン化については、できるだけ早急に対応すべく杏林舎並びに関係部署と協議を行っている。

(4) 編集内規・投稿要領について

実態に即したものに変更する準備を進め、当初は 2 月の理事会に報告予定であったが、追加修

正事項があったため、本日の編集会議において最終改定案を作成した。[資料:編集1]
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5)第64回日本産科婦人科学会学術講演会主演題演者に対する講演要旨執筆依頼
日産婦誌64巻8号から順次掲載する予定であり、5月2日を脱稿日として執筆を依頼した。

上妻志郎理事「スカンジナビア学会誌、オーストラリア・ニュージーランド学会誌とのコラボレーションについて、FIGOローマ大会の際に調印式を行う方向で検討している。」

岡井崇副理事長「編集会議に外国人AEに出してもらう件は進んでいるのか。」

上妻志郎理事「現在はペンディング状態である。AOFOG誌としての特徴を出す必要があり何らかの形で参画をお願いしたいと考えているが、具体的な仕組みについては検討中である。」

5) 渉外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

3月16日に第3回渉外理事・幹事会議を開催した。

[FIGO関係]

(1) FIGO 2021 開催候補地について

木村正理事「本日、開催候補3都市のプレゼンを受けたが、最終決定はもう少し時間をかけて行うこととした。」

(2) FIGO Election Process について [資料:渉外1]

小西郁生理事「FIGO理事国の推薦については、今までの流れを十分に確認して判断していきたい。5月の常務理事会までには方針を決めたい。」

(3) FIGO 2012 への本会からの派遣者について

小西郁生理事「渉外担当の木村正理事、編集担当の上妻志郎理事、渉外担当前任の落合和徳副理事長と私の合計4名で参加したい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[KSOG関係]

(1) 名誉会員 Y S Chang 先生 (韓国) への本会からの感謝状授与について

嘉村敏治理事「日韓ジョイントカンファレンスを立上げ、長期間韓国側コーディネーターとして活躍されるなど、日韓関係への貢献は非常に大きい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

小西郁生理事「今後、FIGOの誘致活動を積極的に進めて行くうえで、その際の会長予定候補を決めておくべき時期に来たように思う。会場決定についてもその方の意向を入れて進める必要がある。今年前半にも決めて、FIGOやAOFOGの場でもアピールしていくようにしてはどうか。」

吉川裕之理事「9年後の開催だが、会長は現役であるべきか、立候補制にするのか、また学会と担当校の役割をどう整理するのか、など会場の問題だけでなく大会の全体像を議論しておく必要がある。」

岩下光利理事「誘致のためには、会長候補は多くの海外の人に知られた名前である必要があり、その認知度を高めるためには前広な準備が不可欠である。また本会上げての大会になる以上、本会の役員クラス以上の方が会長候補になる必要がある。」

平松祐司第64回学術集會長「今回のFIGOフォーラムやISワークショップは誘致策の第1歩として成功させる必要がある。さらに渉外については、国によって外国からの招待者への対応は異なっている。本会は従来から担当校中心でやって来たが、今後はどのような軸で誰が主体になって渉外の具体的対応を進めていくのかを考えておかないとFIGO誘致もうまくいかないのではないか。」

木村正理事「渉外活動の財政的なバックアップを学術集會長にどこまで依存するのか、また公益社団法人である本会が経済的にどこまで対応できるのかなどを議論しておく必要がある。」

平松祐司第64回学術集會長「先日TAOGに参加して、招待客への接遇レベルなどは参考になった。国際的な地位や発言力を維持して行こうとするならば、相当程度手厚い外交儀礼レベルを本会として固めておいた方がよい。」

岩下光利理事「今後の事業計画のなかで、FIGO誘致事業を公益事業の一つとして予算立てをする必要がある。」

和氣徳夫監事「FIGOを誘致する会長選びは本会の将来にも大きく関わることなので、会長指名委員会を設置して慎重に審議して選ぶべきではないか。」

嘉村敏治理事「誘致活動は今秋のローマ大会から始まるため、それまでには本会として会長を選んでおきたい。」

小西郁生理事長「FIGO 2021の会長候補を選定するワーキンググループを設置することでよいか。」

ワーキンググループの設置について、特に異議はなく、全会一致で承認された。

小西郁生理事長「学術集會開催時の海外からの招待客や演者の接遇についてはどうか。」

和氣徳夫監事「過去の国際会議の運営経験から考えると、ハイレベルの要求をするスピーカーもいて、国の事情によって要求レベルは大きく異なる。非常にホスピタリティのある対応を行っている国もあるが、日本でできる範囲には限界があるのではないか。」

吉川裕之理事「海外組織の役員に対しては、学術集會長よりも理事長や渉外担当理事が主導して接遇するというのは良いが、その費用についての支払範囲と限度を決めておく必要がある。」

落合和徳副理事長「FIGO招致だけでなく様々な接遇があるなか、理事長以下、接遇を受け持った先生方が学会として対応したものについては、常識の範囲内で掛かった費用を理事会で認めていただくようお願いしたい。」

和氣徳夫監事「諸外国はかなり派手な誘致活動を行うし、そうしないと票が取れない面もある。そういった側面を十分に考慮したうえで招致活動を行わないと実現性が乏しくなる。」

木村正理事「投票が2015年なので立候補は2014年であり、それまでは表立った活動を行わないとのルールが示されているので、多少時間的な余裕はあるが、誘致作戦の内容と直前段階でどの程度費用をかけるかなどは考えておくべき項目である。」

平松祐司第 64 回学術集会長「TAOG ではアテンド役が活躍していたが、本会でももう少し表に出て関係を作っていくことも一つのやり方だと思う。」

小西郁生理事長「学会としての海外からの招待客や演者の接遇について、検討グループを作るなどして、接遇の考え方、対応範囲と体制などについての仕組み作りを議論していきたい。」

6) 社 保 (吉川裕之理事)

(1) 会議開催

①3月16日に第2回婦人科内視鏡悪性腫瘍手術に関する関連団体協議会を開催した。

吉川裕之理事「保険点数を獲得するために、先進医療を行う施設を増やすことや安全性の担保のため専門医・認定医を増やすことを検討している。」

②3月16日第8回常務理事会終了後、第3回社会保険診療報酬改定提案ワーキンググループおよび第5回社会保険委員会を開催の予定である。

(2) 疑義解釈委員会より平成23年度第4回供給停止予定品目について検討依頼を受領し、本会理事および社保委員による検討結果を回答した。

(3) 抗HBs人免疫グロブリンの開発要望について変更検討不要と判断したことに対して、厚生労働省医薬食品局審査管理課に再検討を依頼する要望書を送った。[資料:社保1]

海野信也委員長「未承認薬の親委員会で議論されると思うが、もしこれがダメな場合はその経緯を確認してほしい。」

落合和徳副理事長「継続検討を要望するなど本件の対応方針を事前に検討しておきたい。」

7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 日本専門医制評価・認定機構 [資料:専門医1]

①3月9日に、小西理事長、吉川専門医制度委員長が出席して、本学会における2階部分のヒアリングを受けた。

吉川史隆理事「婦人科腫瘍専門医について、産婦人科だけ腫瘍が個別にあるのは突出しているとの意見があった。」

櫻木範明第65回学術集会長「あらゆる臓器別に癌専門医がいるのはどうか、というのが機構側の認識である。産婦人科の中では婦人科腫瘍領域は研究分野・診療分野として独立していることについて評価委員会の理解はいただいたと思う。このあと理事会で決定される。」

②平成24年度第1回社員総会が5月8日に開催される。

(2) 地方委員会宛通知

平成24年度審査等に関わる各種様式・研修出席証明シール、平成24年度専門医認定審査等についての案内を平成24年度事業計画を添えて地方委員会宛に3月9日に送付した。

(3) 専攻医指導施設指導責任医宛通知

平成24年度に産婦人科研修を開始する専攻医数のアンケート書面と専攻医指導施設指定基準改訂と施設区分指定基準決定の書面を指導施設指導責任医宛に3月1日に送付した。

8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成23年2月29日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：45 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：575 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：575 施設
- ④顕微授精に関する登録：509 施設
- ⑤非配偶者間人工授精に関する登録：16 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

3月5日現在申請269例〔承認230例、非承認4例、審査対象外18例、取り下げ1例、照会6例、審査中10例〕（承認230例のうち7例は条件付）

(3) 会議開催

①「平成23年度第4回着床前診断に関する審査小委員会」を3月6日に開催した。

②「平成23年度第4回倫理委員会」を3月19日に開催する予定である。

※セント・ルカ産婦人科の宇津宮隆史院長を招聘し、当該施設からの着床前診断に関する申請で本会が審査対象外とした症例についてPGSを施行したことへの聴き取りを行う。

岡井崇副理事長「この目的は何か、また本会はどのような姿勢で臨む予定なのか。」

落合和徳委員長「最近の動向についての意見交換を通して認識の相違点を確認し、現在の見解を見直す際材料が出てくれば良いと考えている。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

③3月30日に「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案ワーキンググループ委員会を開催する予定である。

(4)「出生前に行われる検査および診断に関する見解」改定案ワーキンググループ委員会の委員を京都大学の山田重人先生に委嘱する。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 教育（八重樫伸生理事）

(1) 会議開催

①3月9日第2回平成24年度専門医認定筆記試験問題作成委員会を開催した。

②3月9日2012年度海外派遣予定者ならびにコンダクターを含め事前打合会を開催した。

③3月16日ならびに3月30日、4月14日第4回若手医師企画打合会を開催する予定である。

(2)「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

3月8日現在、入金済5,648冊、校費支払のため後払希望67冊。

(3)用語集・用語解説集について

第4回理事会ならびに教育委員会の議を経て、改訂案を作成したので、学会HPならびに学会機関誌64巻4号に掲載して会員のご意見を伺っている。（意見締切:4月30日学会事務局必着）

(4)第4回若手医師企画コメンテーター依頼

下記、7名の先生方にコメンテーターを依頼したが、大野 泰正先生からは一般演題講演との重複のためお断りがあった。今後の対応に関しては若手医師企画委員に任せる予定である。

新井隆成先生（金沢大学）、大野泰正先生（大野レディースクリニック）、金尾祐之先生（倉敷成人病センター）、北出真理先生（順天堂大学）、小西郁生先生（京都大学）、鈴木彩子先生（京都大学）、三上幹男先生（東海大学）

(5) 産婦人科研修の必修知識電子版発刊について

電子版発刊にあたり、若手の先生に校正をお願いしたが、その回答がほぼ揃ったので教育委員会主務幹事永瀬智先生と教育委員会委員平田修司先生、見直し取りまとめ役多賀谷光先生に再度の確認をお願いしている。

(6) 第5回若手医師企画若手委員を決定し、依頼状を送付した。[資料：教育1]

10) 地方連絡委員会 (落合和徳副理事長)

小西郁生理事長「4月14日開催の地方連絡委員会で専門医制度の改定について周知してほしい。」

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村敏治委員長)

(1) 会議開催

3月15日第3回広報委員会を開催した。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報1]

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料：広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料：広報3]

(5) リビング和歌山[医療ガイドブック・すくすくNAVI]について [資料：広報4]

岡井崇副理事長「転載は有料にして行こうとの方針ではないか。」

嘉村敏治委員長「無料雑誌なのでこれについては転載料を取らなくて良いと考えた。」

吉川史隆理事「転載依頼のある『病気を知ろう』は一般の方々に対する広報でもあるので転載料は取らなくてよいと思うが、無断転載を禁じる旨の一文を入れておくとよい。」

海野信也委員長「転載を依頼してきた企業は一般の営利企業である。無料雑誌ではあるが、広告を取って利益を上げるための材料として使われることを考えれば、転載料を取るべきではないか。」

木村正理事「同種の無料ペーパーを目にするが、和歌山学会にこれが公益的なのか営利的なのか確認してみると良い。」

櫻木範明第65回学術集會長「この内容についてだが、HPV ワクチンの標記や検診の必要性など、追加修正した方が良い部分もある。」

吉川裕之理事「転載料を取る場合は規定が必要になるので、今回は転載自体を認めるべきではない。さらに『病気を知ろう』は出版物のようなものであり、今回の依頼は図表等の転載とはレベルが違ふ。著作権の問題になるため認める必要はないと思う。」

岡井崇副理事長「これを載せることで広告を取ることを考えれば厳格に考えた方が良い。」

清水幸子副議長「女性の健康週間の手帳や女性の健康百科についても転載申込があったが、委員会で検討した結果、全体を載せる場合は断った。」

吉村泰典委員長「『病気を知ろう』は一般の方々に産婦人科の病気を知ってもらうことが目的で作成した。例えば ACOG ではこの種のを病院に配っているように、ホームページに掲載すれば良いということではなく、本会から患者さんに対して広く伝えていく努力を行う必要がある。企業活動との関係をうまく整理して、国民に対する啓発活動を行うことは公益社団法人として非常に大事なことである。せっかく良い材料があるので、広報ではこれをどう展開させていくかについてぜひ検討してほしい。」

吉川裕之理事「ACOG では個別の疾患ごとにエデュケーションパンフレットとして作成され、病院

が患者への基本的な説明を行う際などに使われているようである。このように利用目的を考えてカスタマイズすればよいので、全体を丸ごと渡してしまう方式には反対である。」

小西郁生理事長「今回の申し出は断ることとして、広報で今後の利用方法や転載方針などについて検討をお願いしたい。」

小西郁生理事長の提示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) anetis への本会ロゴ掲載について

平松祐司第 64 回学術集会長「学会関係記事の部分は良いが、必ずしもガイドラインにマッチしない部分がある。ロゴを入れるのであれば、広報委員会で内容をチェックする手順を入れる必要があるのではないか。」

小西郁生理事長「anetis は本会のオフィシャルな雑誌ではないので断ることにしたい。」

ロゴ掲載の謝絶につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 「妊娠を知ろう」コーナーについて

嘉村敏治委員長「周産期委員会からの依頼がありホームページ一般ページに設定する。保険指導マニュアルも載せていく方針である。また各種委員会英語標記部分の手直しが必要であれば渉外で確認をお願いしたい。」

2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長)

(1) 平成 24 年 2 月 24 日に第 5 回未来ビジョン委員会を開催した。

(2) 特任理事の設置について [資料：未来ビジョン 1]

吉村泰典委員長「理事長の業務執行を補佐する特任理事を設置して、例えば若手、女性など、理事長がその時点で必要と思われるテーマを担当する人を指名して、理事会で意見を言ってもらような仕組みにしたい。今後議論を進めて 6 月の定時総会で承認を得たいと考えている。」

岡井崇副理事長「定款と定款施行細則の関係について整理が必要ではないか。」

吉村泰典委員長「検討したい。」

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長) 特になし

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2008」頒布状況について

3 月 7 日現在、入金済 11,966 冊、後払希望 0 冊。

② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011」頒布状況について

3 月 8 日現在、入金済 12,014 冊、後払希望 109 冊。

③ 第 2 回作成委員会を 2 月 29 日に開催した。

吉川裕之学会側調整役「ガイドライン産科編を 2,000 部増刷した。ポケット版の作成や電子版についても検討を行っている。」

(2) 産科編評価委員会 (海野信也委員長) 特になし

(3) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について

3 月 8 日現在、入金済 10,557 冊、後払希望 105 冊。

②第2回作成委員会を3月25日に開催する予定である。
吉川裕之学会側調整役「ガイドライン婦人科外来編も2,000部増刷した。」

(4) 婦人科外来編評価委員会（峯岸 敬委員長） 特になし

(5) 兵庫県産科婦人科学会から、「産婦人科診療ガイドライン産科編2011に対する意見書」を受領した。 [資料:ガイドライン1]

水上尚典委員長「誤解に基づく部分も多いので、きちんと回答したい。」

吉川裕之学会側調整役「会員の意見を広く吸い上げて誤解のないようにするため、今後はコンセンサスマーケティングをもっと地方で開催するようにしたい。」

岡井崇副理事長「ガイドラインはきちんとした手順で作成しているので、本会の意見を丁寧に回答していただきたい。」

木村正理事「本件の質問と回答についてはホームページなどで公開した方が良いのではないかな。」

水上尚典委員長「その方向で考えたい。」

5) コンプライアンス委員会（平松祐司委員長）

(1) 利益相反情報開示請求書〔案〕を作成した。 [資料:コンプライアンス1]
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 医療改革委員会（海野信也委員長） 特になし

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（竹下俊行委員長）

(1) 地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]

(2) 女性の健康週間2012について

①2012年イベント報告 [資料:男女共同2]

②丸の内キャリア塾女性の健康週間特別セミナー参加者全員に、児童虐待防止に関するパンフレット配布を行った。

③東京新聞より小田瑞恵委員に取材申込みがあり、3月1日朝刊に女性の健康週間の周知とともに女性の健康に関する記事が掲載された。 [資料:男女共同3]

8) 若手育成委員会（齋藤 滋委員長欠席につき、金内優典主務幹事）

(1) 第2回産婦人科スプリングフォーラムについて

3月3日・4日に京都市・京都平安ホテルにおいて開催した。参加者は67名であった。

(2) 第3回以降産婦人科スプリングフォーラムについて

第3回は京都市・京都平安ホテルで平成25年3月の開催を予定している。

第4回以降については、開催場所等についても考慮したいと考えている。

(3) 第6回産婦人科サマースクールについて

8月11日・12日に岩手・ホテルメトロポリタン盛岡で開催する予定である。

8月10日にオプションツアーとして県立宮古病院において、院長先生や若手の先生方の経験談を伺う予定である。

今回はJTB学会応募システムアマリスを使用して参加募集を行う。募集開始は5月上旬、締切は6月15日予定である。

(4) 第6回産婦人科サマースクール若手医師委員を決定し依頼状を送付した。[資料:男女共同1]

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (岡井 崇委員長)

(1) 第1回医療安全推進委員会を3月15日に開催した。[資料:医療安全1-1]

岡井崇委員長「医療安全全国共同行動の『手術安全チェックリスト』実施アドバイザーパネルに本会から鈴木真先生を推薦したい。また本委員会の活動として、手術の偶発合併症報告制度をサブスペシャリティ学会と連携して進めること、母体危機的状況のシミュレーション教育の検討、医師法21条の改正に向けて日本医師会等と連携して進めることを協議した。」

吉川史隆理事「手術の偶発合併症報告制度の考え方は良いことだが、多忙な産婦人科医が対応可能かどうかを考慮のうえ、この制度の導入の可否を含めて検討をお願いしたい。」

小西郁生理事長「確かにクランクを導入する時でないとはじめられないかもしれない。」

海野信也委員長「外科学会が全症例を登録している背景には、手術登録を通して保険適用状況を学会として把握できるためである。産婦人科についてもその観点が必要だろうからできるのならばそれに越したことはない。診療科ごとの話でなく外科系学会連合で『手術について、病院は登録システムを作って対応する』という流れを作っていくことが重要ではないか。」

嘉村敏治理事「腫瘍登録の現状からみて、全数登録は難しいように思う。」

海野信也委員長「産婦人科というより外科系全体の問題として取組んで行く必要がある。」

小西郁生理事長「医療安全全国共同行動に鈴木真先生を推薦することはご了承いただきたい。また偶発合併症報告制度については、外科系全体という方向で医療安全推進委員会で引き続き検討をお願いしたい。」

小西郁生理事長の提示した方針につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 「医療事故調査に関する検討委員会」答申に関するアンケート調査集計結果を受領した。
[資料:医療安全1]

III. その他

(1) シミュレーション教育システムについて

海野信也委員長「妊産婦死亡の原因分析を、日本産婦人科医会と国立循環器病研究センターと共同で行っている。この中で大量出血事例についてはある程度解決しうるが一次対応が重要であり、それについて十分教育ができていない可能性がある。本件については日本新生児医学会と相談して進めていきたい。」

以上

平成 24 年 5 月 18 日

議事録署名人 小西 郁生 ㊞

和氣 徳夫 ㊞

資 料

1. 平成 23 年度第 7 回常務理事会議事録(案)
2. 平成 23 年度第 8 回常務理事会業務担当理事報告並びに関連協議事項予定内容
- 総務 1：総会運営委員会委員、決算委員会委員候補者
- 総務 2：平成 24 年度臨時総会次第
- 総務 3：行政処分 関連新聞記事
- 総務 4：平成 24 年度日本産科婦人科学会予定表
- 総務 5：HPV ワクチンの男性適用拡大の要望書の共同提案について
- 総務 5-1：リンパ浮腫研修委員会における合意事項の広報のお願い
- 総務 5-2：婦人科腫瘍委員会からの回答
- 総務 6：ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書に対する小野薬品工業からの回答
- 総務 6-1：ジノプロスト注射液の用法・用量の変更に関する要望書に関連する資料の提出について
- 総務 6-2：生後一ヶ月検診での便のチェックによる先天性胆道閉鎖症の早期発見について
- 総務 7：「次期国民健康づくり運動」の目標案
- 総務 8：歯科口腔保健の推進に関する法律の基本的事項骨子案
- 総務 9：「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」の一部改正について
- 総務 9-1：「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正について
- 総務 9-2：医療ネグレクトにより児童の声明・身体に重大な影響がある場合の対応について
- 総務 9-3：医薬品・医療機器等安全性情報報告制度の周知について
- 総務 10：日本医学会役員選挙結果について
- 総務 10-1：平成 24 年度臨床研究中核病院整備事業の実施について
- 総務 11：日本癌治療学会がん診療ガイドライン委員会子宮頸がん、子宮体がん及び卵巣がんの担当委員の委嘱について
- 総務 12：救急救命士の国家試験の試験委員のご承諾依頼について
- 総務 13：安全な急速輸血装置開発のための支援のお願い

総務 14：日本家族計画協会主催の松本賞について

総務 15：「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価
検討会のお願い

編集 1：編集に関する事項 新旧対照表

渉外 1：FIGO Election Process

社保 1：抗HBs 人免疫グロブリンの開発要望について

専門医 1：日本専門医制評価・認定機構平成 24 年度第 1 回社員総会のご案内

教育 1：第 5 回若手医師企画若手委員

広報 1：JSOG-JOBNET 事業報告

広報 2：ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について

広報 3：JSOG ホームページアクセス状況

広報 4：リビング和歌山[医療ガイドブック・すくすく NAVI]

未来ビジョン 1：特任理事の設置について

ガイドライン 1：産婦人科診療ガイドライン産科編 2011 に対する意見書

コンプライアンス 1：利益相反情報開示請求書案

男女共同 1：平成 23 年度地方学会担当市民公開講座一覧

男女共同 2：2012 年イベント報告

男女共同 3：東京新聞の女性の健康に関する記事

若手育成 1：第 6 回産婦人科サマースクール若手医師委員

医療安全 1-1：第 1 回医療安全推進委員会議事録案

医療安全 1：「医療事故調査に関する検討委員会」答申に関するアンケート調査集計結果